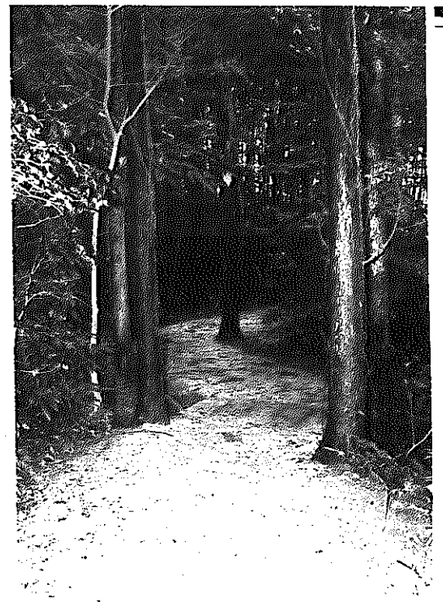
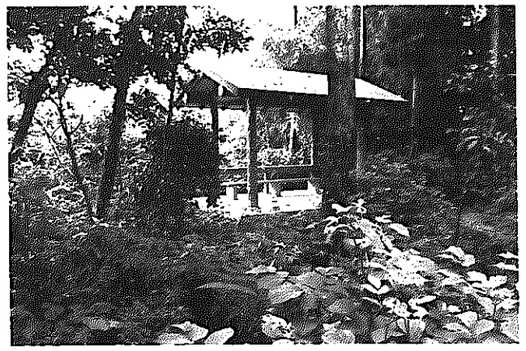
平野の別天地にしゃれた竹垣がお目見え

庄瀬地区生涯学習推進協議会 アメニティ公園竹垣作り





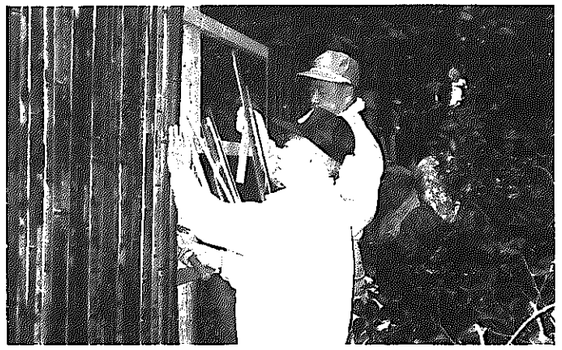
昨年三月に完成した庄瀬アメニティ公園（庄瀬七）。自然がいっぱいのこの公園内に竹垣を作る作業が進められています。地区生涯学習推進協議会が音頭をとって昨年十一月下旬から始めたもので住民約四十人が参加。すでに二十数メートルが出来上がり、春までに約百メートルの垣根が完成する予定です。

もともとここは、この地で昔地主だった川又氏の敷地。「自然がいっぱいのこの森を保護し、有効活用したい」という地元の意向を、持ち主の川又正智さんが快く引き受けて公園化されたもの。県農村アメニティモデル育成支援事業を受けて、約三千平方メートルの敷地内に五百八十万円をかけて、あずまや一棟、ベンチ二基、腰掛け五基、百二十メートルの散策路が整備されました。

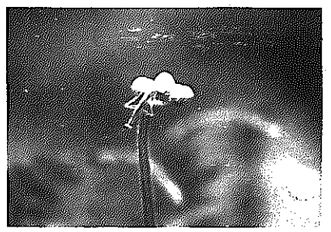
公園内はスギの大木や竹がうっそうと茂り、真夏の日中でも薄暗いほど。アケビやワラビなど多くの植物が自然繁殖しているほか、アゲハチョウやセミなどもたくさん集まってきます。まさに山奥の一角を運んできたかのようで、市内でも有数の散策地です。

今回作られた竹垣は建仁寺垣（けんにんじがき）といい、割った竹を縦に並べてつなげていくもの。庶断用として一般的な垣根です。地域の造園業者からアドバイスを受け、二十数メートルを完成させました。今後は、より難易度の高い御簾垣（みすがき）にも挑戦する予定です。

住民の協力でしゃれた竹垣も加わりました。都市化の波が押し寄せる昨今、自然の安らぎを感じさせてくれるこの公園をいつまでも大切にしていきたいものです。



▲竹垣作りに励む地区の皆さん



▶ワラビなども見かけることができた（昨年7月）

昔の生活の知恵に感心

茨曽根地区公民館 子供とお年寄りの集い

十一月十六日、「子供とお年寄りの集い」が茨曽根小学校体育館で開かれました。これは、茨曽根地区公民館が、先人の知恵を学び、お年寄りと子供の交流を深めようと毎年行っているもの。同校の五・六年生約六十人が地区のお年寄りからワラを使った民具の作り方などを教わりました。

「昔はワラがあれば生活できるくらいたくさんの用途があった」と話す同地区公民館長の関根喜八郎さん。「ワラを炊事に使い、そのあくを洗剤として使ったものです」などとワラの使い道を説明したほか、ワラ布団やむしろ、わらじなどの民具を紹介しました。

その後、子供たちはグループに分かれて、お年寄りと一緒にワラを打ったり、縄をなったり。最後に同小学校六年生の渡辺樹里さんが「教えてくださったおじいさん、お婆さんがワラを魔法のように操って、いろいろ身近なものに変わるなんてすごいなあと思いました」と感想を述べました。

集いは、昔の人が工夫をして、考え出した暮らしの知恵の素晴らしさを子供たちが理解する良い機会になったようです。

地域の防火・防災に一役

高井東自治会消防団が発足

十一月十九日、高井東自治会消防団の発足式が行われました。

高井東自治会では、平成二年に団地内で出火があってから、自治会消防を結成しようという機運が盛り上がっていました。そして平成六年、自治会の執行部など二十人からなる自治会消防団を結成。十一月に正式に発足したものです。

十九日の発足式では、昨年八月に市から寄贈された可搬式の消防ポンプを使っての放水訓練も行われました。今後、自治会消防団では、残火の警備や防火・防災の啓発などの活動を行っていく予定です。

幅広く体験をもとに話し合い

女性セミナー公開講座

十二月十日、教育委員会と連合婦人会が主催してしろね大凧と歴史の館で開かれた女性セミナー公開講座のパネルディスカッション。「男女共生社会に向けたパートナーシップを考える」と題して、五人のパネラーと参加者たちが職場や家庭におけるよりよいパートナーシップとは何かについて話し合いました。

話し合いの中では、それぞれが家庭での家事の分担や職場での女性進出などについて実状をもとに発言。「良いパートナーシップを築くためにはお互いが自立し、感性を磨いて良い生き方をしなければならない」、「それぞれの立場をわきまえ、自分が今、何をしなければならないかを考えて行動すべき」などさまざまな意見が出されました。

みんな一緒に凧作り

小学生の国際交流セミナー

小学生の国際交流セミナーが、十二月三日、新津市民会館としろね大凧と歴史の館を会場に開かれました。これは、県内にいる外国人と三市中蒲の小学生を対象に新津市が主催したもの。白根市からも三十人余りの子供たちが参加し、外国人と世界の遊びに挑戦しました。

子供たちは、午前中に新津市民会館で三市中蒲の国際交流協会のスタッフが扮するツアーコンダクターと一緒に世界各国の日常生活に関するクイズやレクリエーションで外国人と交流。午後からは、大凧と歴史の館に会場を移して、和凧作りに挑戦しました。

凧づくりは初めてという外国人たち。指導するボランティアスタッフも身振り手振りを交えながら丁寧に指導します。参加者たちは出来上がった凧を、早速風洞実験室で揚げて楽しんでいました。

●身近な情報をお寄せください（企画財政課広報広聴係☎373・2111）